

「広報いせ」特集記事制作プロジェクト

活動を通して学んだこと

プロジェクト発足当時は伊勢市をメインとして活動こだわりました。伊勢市のことについて考え、学ぶことができました。最近では伊勢市近隣の市町との広報紙合同特集が行われておらず、伊勢市だけではない地域のことについても考え、学ぶことができます。



TEAM DATA	メンバー数	: 15名
活動場所	: 伊勢市	
実施主体	: 伊勢市情報戦略局広報広聴課	
担当教員	: 池山 教 (教育開発センター)	
活動年度	: H30, R01, R02	

月別活動

(4月) 全国広報コンクール「広報企画部門」にて読売新聞賞を受賞

(5月) 7月号に向けてアイデアを出し合う、伊勢えがおプロジェクトのPR活動に参加

(6月) 三重とこわか国体特集の記事制作に向けてのミーティング

(7月) 8月号の完成報道発表会への参加



(8月) 10月号に向けての取材・撮影

(9月) 三重とこわか国体特集の記事制作に向けてのミーティング

(10月) 10月号の完成報道発表会への参加

(11月) 「健東向でも相談室」の運営コーナーに開いてアイデアを出し合う

(12月) 南伊勢町にてビーチボーラーハーの体験取材を行う、伊勢市にてボッチャと灯火の取材を行う



実施主体からのコメント

成果物／制作物



広報いせ 令和2年7月1日号

担当教員より

教育開発センター 池山 教

自治体の広報誌は市民のみなさんにとって大切なお知らせをするための媒体です。そこにはゴミの出し方から、詳しい市の予算まで様々な内容が掲載されています。大切なお知らせを見やすく、正しく市民にお伝えすることが使命です。インターネットやSNSが隆盛の現代ですが、あえて紙媒体であるこの意味もまだまだあると感じています。5万部を超える発行部数の印刷物に関わる機会はそうあります。このプロジェクトに関わることにより、人に物事を正しく伝えることの大切さ、難しさを感じます。引続きこのプロジェクトで多くを学んでくれることを期待しています。

10月から12月にかけて、三重とこわか国体特集をさせていただきました。普段は取材する側として本プロジェクトで活動をしていましたが、この日は取材される側であつたため緊張をするとともに特集記事完成の達成感を感じることができました。

12月には全校生徒が必修で受けている「伊勢志摩共生学」でこの活動について知つもらいました。この取材では伊勢市だけでなく近隣の市町に出て向いて取材を行いました。また、実際に競技を体験しながら取材を行いました。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりCLU活動の一時休止があり、思うように活動することができませんでした。しかし、活動の再開後すぐにミーティングや取材・撮影を行えたことは実施主体様と担当教員、大学のサポートが開きましたからうれしかったです。本当にありがとうございました。今後も皆様のサポートがあることをとても嬉しいと思います。

伊勢市情報戦略局広報広聴課 ご担当者様

市的情報を約85%以上の市民の皆さんのが54,000部超発行の「広報いせ」から得ています。「広報いせ」の特集記事などに大学生の皆さんのお手本を制作することで、市民の皆さんに増やします。伊勢のファンと一緒に楽しめます。「気つき」を与え、伊勢のファンを作っていく自分たちが楽ししく使命感を持つて取り組むことを大切です。自分たち「ならでは」の作品をつくりましょう!